

比角校だより

平成 23 年 10 月 3 日
第 6 号

前期を振り返って

校長 小暮 哲郎

コスモスの花が咲き始め、秋の訪れを感じるようになりました。9月28日(水)には、秋晴れの下、校内マラソン大会が開かれ、全員が全力を出し切ることができました。大勢の皆様のご声援、ありがとうございました。

10月7日(金)が前期終業式です。前期は、高学年にとって学校代表として活躍する場面がたくさんありました。親善陸上大会、マーチングパレード、親善水泳大会、上越地区合唱コンクールなどです。緊張感の中で自分の力を発揮し、とても良い経験ができたと思います。様々な経験を生かし、学校のリーダーとして益々の活躍を期待しています。1年生も、すっかり学校生活に慣れ、伸び伸びと生活しています。大震災による転入児童は、今日現在47名です。9月1日から伊藤博義教諭が福島県から当校に派遣されました。さっそく授業や学校生活の様々な場面で、転入児童を中心に子どもたちの支援に当たってもらっています。10月12日(水)から後期がスタートしますが、それぞれの目標に向けて充実した日々にしていきたいと思ひます。

通知表「秀苗」の名の由来について

終業式当日、通知表が担任から手渡されます。当校では、ずっと前から通知表のことを「秀苗」と言っています。また、図書室を中心に体育館などいろいろな所で「秀苗」に関する掲示物を目にします。



大正7年、校区内の丸田尚一郎氏が、わずか5才で亡くなった二男悌三郎さんの冥福を祈り、その愛読書90冊を当校に寄贈しました。これが当校の図書館のはじまりであり、この図書館は県下で一番古いと言われています。学校では、悌三郎さんの法名である「玉質秀苗禅童子」の一部をとって、この図書館を「秀苗文庫」と名付けました。法名を付けた人が新井石禅禅師という高僧であり、「秀苗文庫」という文字も、新井石禅禅師が書きました。現物が図書室に掲示されています。「秀苗」という文字には、「小さな弱々しい苗が、雨や風から守られ、害虫や病気におかされることなく、強く立派に成長するように」という願いが込められています。



気持ちの良いあいさつを目指して！

9月14日から4日間、第二中学校生徒会や校区の方々、当校正門で「あいさつ運動」を行ってくれました。「あいさつで広がる信頼つながる絆」と書かれた横断幕やのぼり旗を掲げ、小学生に明るく元気なあいさつを呼びかけました。突然の呼びかけに、最初は戸惑い気味でしたが、だんだん気持ちの良いあいさつができるようになってきました。登下校時、子どもたちを見かけましたら、気軽に声を掛けていただければありがたいです。



<秋晴れの下、マラソン大会開催 9/28>



1, 2年生の部



3, 4年生の部



5, 6年生の部

<最近の学校生活から>



1年 海遊び



1年 ヤギの健康診断



2年 大根の種まき



2年 英語の学習



3年 スーパーの見学



3年 クラブの見学



4年 エコの学習



4年 保健の学習



5年 総合の発表会



5年 わら細工の体験



6年 立山自然教室



6年 各種大会の表彰